

水道ビジョンレビュー

2. 水道の現状と将来の見通し

(5) 世界の中で我が国の水道はどのような役割を果たすべきか

○安全な飲料水があれば助かる命

世界では、急激な人口増加や経済発展などにより、水不足や水質汚染、生態系への影響、水災害など、水にかかわる問題はより深刻化している。

開発途上国に暮らす5人に1人に当たる約11億人もの人たちが、安全な飲料水を利用することができず、また、途上国の2人に1人に当たる26億人もの人々がトイレや下水道などの基本的な衛生施設を利用することができない状況にある。

世界保健機構(WHO)によると、毎日5000人の幼い子どもたちが、安全な飲料水を利用できないために命を奪われているといわれている。



日本の支援で作られた井戸で水を汲む子どもたち
(ガーナ 写真: JICA)



井戸で水を汲む女性
(エチオピア 写真: JICA)

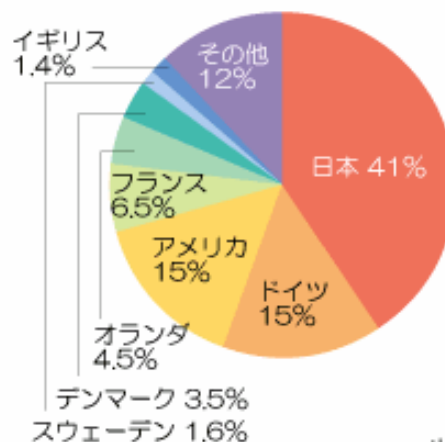
水道ビジョンレビュー

2. 水道の現状と将来の見通し

(5) 世界の中で我が国の水道はどのような役割を果たすべきか

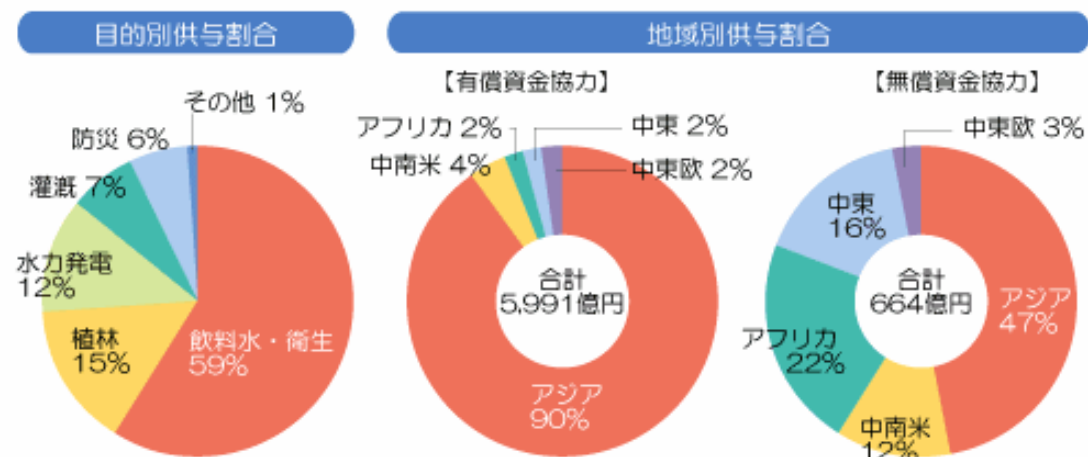
○水と衛生分野への日本の取組み

■水と衛生分野への各国の援助実績
(2000～2004年)



出典：OECD-DAC

■水と衛生分野への日本の援助の内訳（2002～2004年度計）



出典：ODA白書

水道ビジョンレビュー

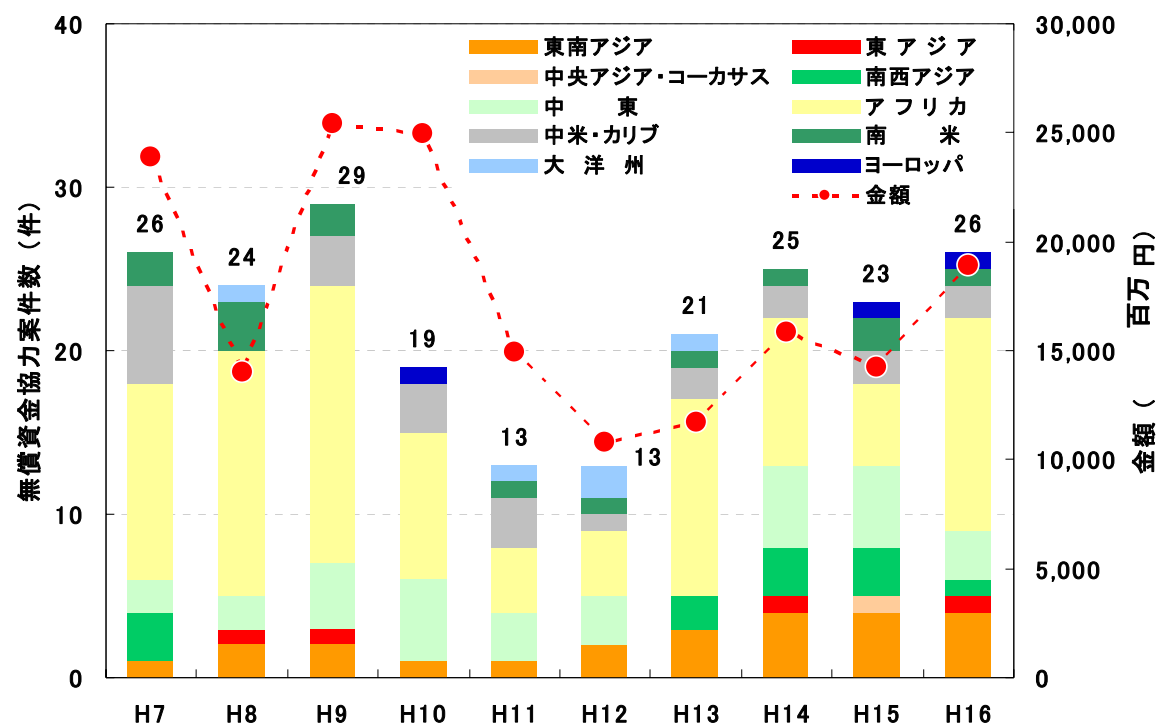
2. 水道の現状と将来の見通し

(5) 世界の中で我が国の水道はどのような役割を果たすべきか

○無償協力案件の推移



日本の協力で拡張・改修された
プンプレック浄水場(カンボジア)



年度(平成)	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	合計	(案件数)
東南アジア	1	2	2	1	1	2	3	4	4	4	24	
東アジア		1	1					1		1	4	
中央アジア・コーカサス									1		1	
南西アジア	3						2	3	3	1	12	
中 東	2	2	4	5	3	3		5	5	3	32	
アフリカ	12	15	17	9	4	4	12	9	5	13	100	
中米・カリブ	6		3	3	3	1	2	2	2	2	24	
南 米	2	3	2		1	1	1	1	2	1	14	
大 洋 州		1			1	2	1				5	
ヨーロッパ				1					1	1		
合 計	26	24	29	19	13	13	21	25	23	26	219	

図表 : 厚生労働省健康局水道課

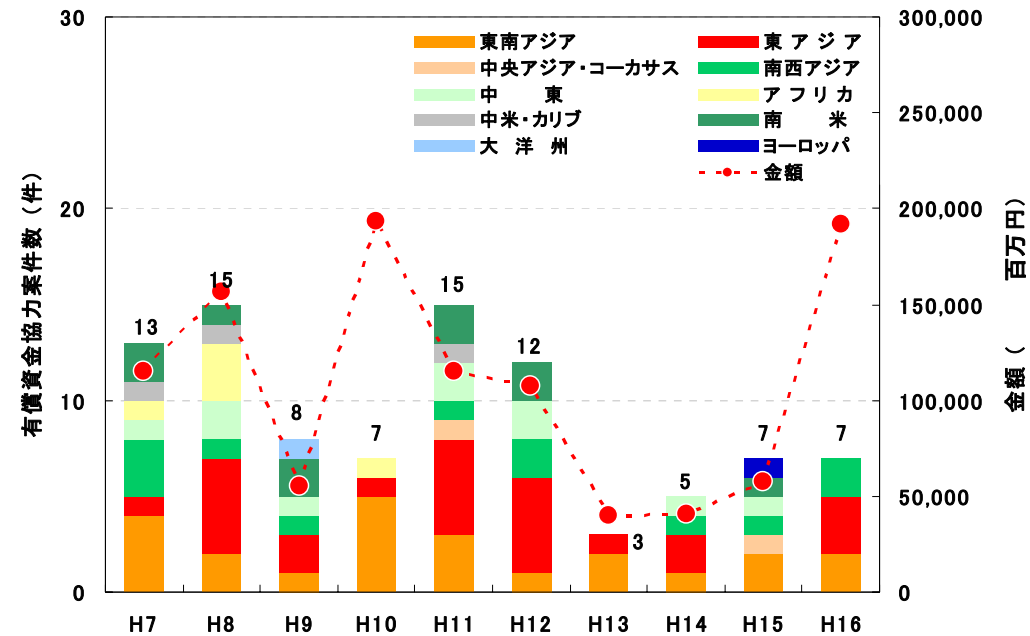
写真 : ODA新聞

水道ビジョンレビュー

2. 水道の現状と将来の見通し

(5) 世界の中で我が国の水道はどのような役割を果たすべきか

○有償協力案件の推移



年度(平成)	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	合計 (案件数)
東南アジア	4	2	1	5	3	1	2	1	2	2	23
東アジア	1	5	2	1	5	5	1	2		3	25
中央アジア・コーカサス					1				1		2
南西アジア	3	1	1		1	2		1	1	2	12
中東	1	2	1		2	2		1	1		10
アフリカ	1	3		1							5
中米・カリブ	1	1			1						3
南米	2	1	2		2	2			1		10
大洋州			1								1
ヨーロッパ									1		1
合 計	13	15	8	7	15	12	3	5	7	7	92

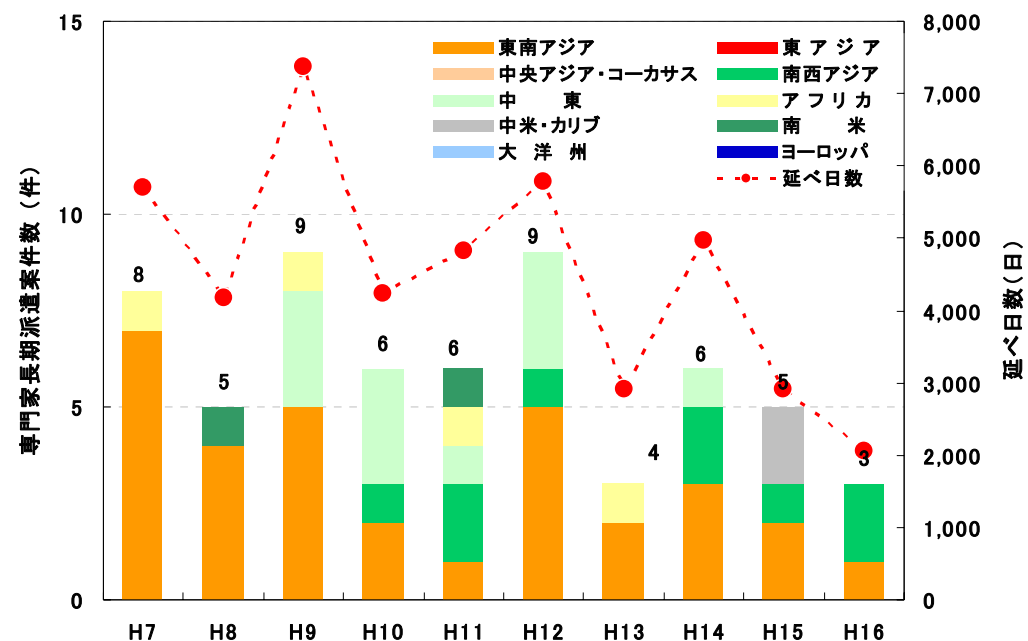
出典：厚生労働省健康局水道課

水道ビジョンレビュー

2. 水道の現状と将来の見通し

(5) 世界の中で我が国の水道はどのような役割を果たすべきか

○長期派遣専門家数



年度(平成)	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	合計
東南アジア	7	4	5	2	1	5	2	3	2	1	32
東 ア ジ ア											
中央アジア・コーカサス											
南西アジア				1	2	1		2	1	2	9
中 東			3	3	1	3		1			11
アフリカ	1		1		1		1				4
中米・カリブ									2		2
南 米		1			1						2
大 洋 州											
ヨーロッパ											
合 計	8	5	9	6	6	9	4	6	5	3	61

(案件数)

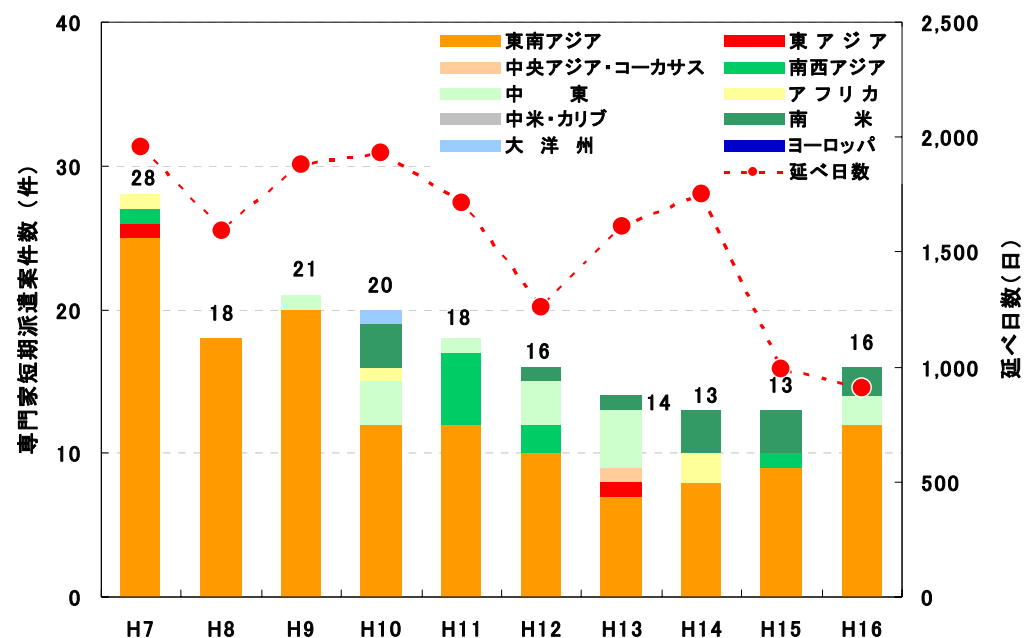
出典：厚生労働省健康局水道課

水道ビジョンレビュー

2. 水道の現状と将来の見通し

(5) 世界の中で我が国の水道はどのような役割を果たすべきか

○短期派遣専門家数



年度(平成)	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	合計
東南アジア	25	18	20	12	12	10	7	8	9	12	133
東アジア	1						1				2
中央アジア・コーカサス							1				1
南西アジア	1				5	2			1		9
中東			1	3	1	3	4			2	14
アフリカ	1			1				2			4
中米・カリブ											
南米				3		1	1	3	3	2	13
大洋州				1							1
ヨーロッパ											
合 計	28	18	21	20	18	16	14	13	13	16	177

(案件数)

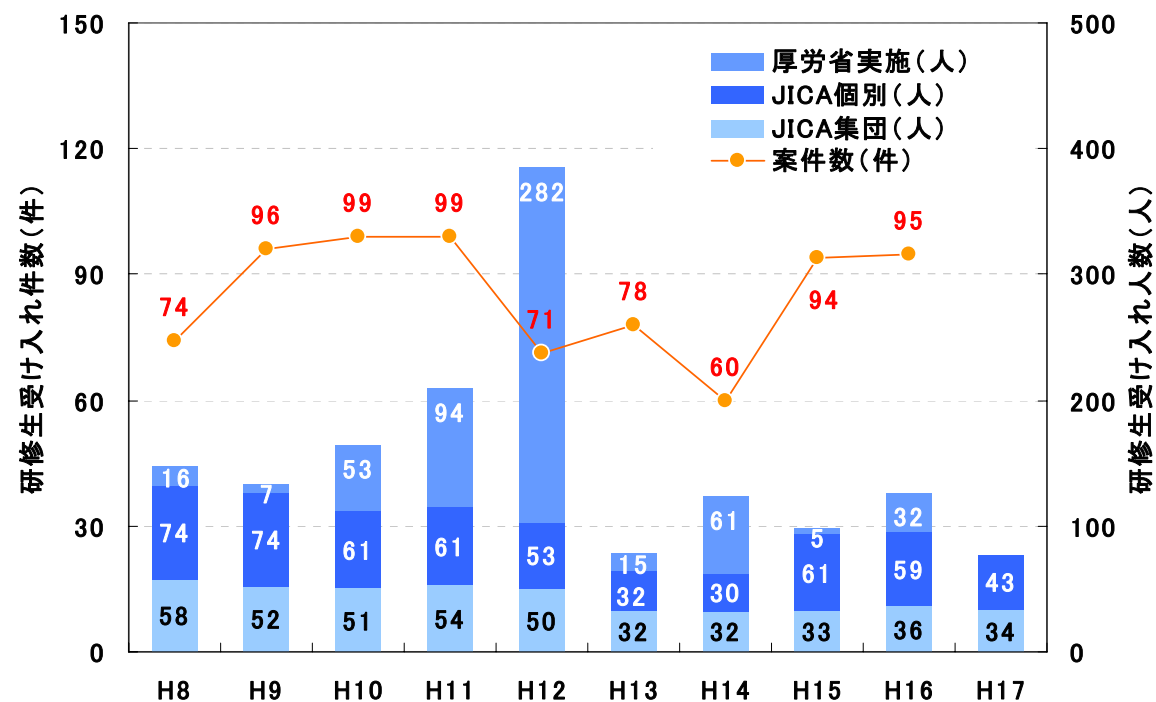
出典：厚生労働省健康局水道課

水道ビジョンレビュー

2. 水道の現状と将来の見通し

(5) 世界の中で我が国の水道はどのような役割を果たすべきか

○研修生受け入れ実績



年度(平成)		H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
案件数(件)		74	96	99	99	71	78	60	94	95	
研修生受入人数(人)	厚生労働省実施研修	16	7	53	94	282	15	61	5	32	0
	JICA集団研修	58	52	51	54	50	32	32	33	36	34
	JICA個別研修等	74	74	61	61	53	32	30	61	59	43
	合計	148	133	165	209	385	79	123	99	127	77

出典：厚生労働省健康局水道課

水道ビジョンレビュー

2. 水道の現状と将来の見通し

(5) 世界の中で我が国の水道はどのような役割を果たすべきか

○水道分野の国際化

(1) 専門家派遣をとりまく動きと派遣ニーズ

- ソフト面でのニーズの高まり（無収水対策、経営・組織運営など）
- 一案件あたりの人材投入量は小型化（包括契約による技術協力が主）
- 現地機能の強化（権限の現地への移行など）

(2) 国内の状況：現状と課題

- 水道事業に従事する職員の減少により、派遣人員の確保・育成が困難
- 言語面での問題等、新規人材の発掘に課題

(3) 新しい動き：人材登録制度の整備、民間活用の拡大など

- JICAにおける人材登録制度の整備（HPIによる人材募集、電子メールによる人材募集情報配布）
- 民間セクターの活用（民間企業、NPO、外国人専門家の活用など）
- 実施機関を中核とする連携の強化
（NGO、大学、地方公共団体、経済団体、労働団体等の関係者のもつ技術・知見の利用）

水道ビジョンレビュー

2. 水道の現状と将来の見通し

(5) 世界の中で我が国の水道はどのような役割を果たすべきか

○水道分野における国際調和の推進(国際規格(ISO/TC224)策定の経緯)

■ ISO / TC224 国際規格策定の主な経緯		■ ISO / TC224 現在までの取り組み状況	
2001. 4.17	ISOに上下水道サービスの規格化を提案	【 国 際 会 議 】	
2002. 7.16	ISO/TC224 上水道対策パネル設立	・ ISO/TC224 総会	× 6
2002. 9.27	ISO/TC224 第1回パリ総会(フランス)	・ ISO/TC224 WG2会議	× 9
2003. 9.22	ISO/TC224 第2回オタワ総会(カナダ)	・ ISO/TC224 WG3会議	× 10
2004. 4.13	ISO/TC224 第3回韓国総会・アジアフォーラム	・ ISO/TC224 WG4会議	× 13
2004. 9.27	ISO/TC224 第4回ラパト総会		計 38回
2005. 1.14	日本水道協会 工務常設委員会	【 国 内 会 議 】	
1.17	▶「水道事業ガイドライン」を制定(JWWA規格)	(1) 上下合同	
2005.10.17	ISO/TC224 第5回ベルリン総会(ドイツ)	・ ISO/TC224 上下水道国内対策委員会	× 9
2006.11.28	ISO/TC224 プンタ・デル・エステ総会(ウルグアイ)	・ ISO/TC224 上下水道合同WG会議	× 1
2007. 9月	国際規格の発行 【予定】	(2) 水道	
2007.11月	ISO/TC224第7回東京総会(日本) 【予定】	・ ISO/TC224 上水道対策パネル・WG合同会議	× 18
		・ ISO/TC224 WG及びWG合同会議	× 11
		・ ISO/TC224 WGD(国内規格作成)	× 4
			計 43回